

国語科

学年	学習状況と課題分析	具体的な改善策
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対して真面目に取り組み、基本的な授業の受け方が身についている生徒が多い。 ・定期考査においても日常の活動が成果となって表れていた。 ・「主体的に学習に取り組む態度」については班単位の詩の音読発表に向けて工夫が見られ、また「情報整理のレッスン」の学習においては、自分のテーマに基づいたポスター作りに熱心に取り組む、其々が発表し合い、学習効果を高めることができた。 ・班学習は、今後もいっそう工夫を加え、行っていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の学習においては、新出漢字は定期テストで、級別漢字においては授業中の小テストや休み明け漢字テスト等で繰り返し学習させていく。 ・文法の学習においては、文法の授業に加え、日常の授業の中でも折に触れ繰り返し学習することで定着を図るよう努めていく。 ・ICTの活用も今回の「ちょっと立ち止まって」の学習の発展学習に続き、タブレット端末の学習ツールの活用を今後の学習に活かしていきたい。 ・日常の班活動がしっかり行えるよう準備をしっかりと整えておく。 ・観点Cの評価の生徒については個々に声掛けや個別学習などの手立てを行う。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」については漢字の定期的な小テストや、学期に1回の確認テストを行うことで学力の定着がみられた。文法事項についても小テスト、復習テスト等実施したが、定着に差がみられる。 ・「主体的で対話的で深い学び」については、単元を貫く課題を設け、課題解決型の授業を実施し、ICTを活用しながら、個人→ペア→グループ活動など段階を経た学習を行ったが、学習効果については個人差がみられる。 ・授業アンケートでは、タブレット端末による学習効果について調査したが、学習効果が実感できないと答えた生徒が13%いた。活用方法が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法については、昨年度の振り返りを授業で行うとともに、タブレット端末の学習ツールの活用を促し、個人のレベルに合わせた復習を推進していく。 ・まずは個人での取り組みについて十分に指導を行う。関連して、「主体的に学習に取り組む態度」がC評価の生徒について、個別に助言するとともに、A評価の生徒の例を提示するなどして支援を行う。 ・タブレット端末の使用について生徒にアンケートをとり、生徒が学習効果を実感できる活用方法について、工夫していく。
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ・どのクラスも落ち着いて授業に取り組んでいる。殆どの生徒が常時集中して前向きに授業に臨んでいる。 ・授業中は受動的な場面と能動的な場面で、めりはりがつけられ、意欲的に発言する生徒も多くみられる。 ・「話す、聞く」の活動をICTの使用により、他の生徒の考えや意見をより理解できる工夫が必要と感じる。 ・読解力の不足により、学習理解が難しい生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容、授業の理解がいっそう深まるよう教材研究に力を入れ、引き続き充実した授業を目指していく。 ・授業中に集中が途切れる生徒に対しては、声をかけ、姿勢ができてから授業を進める。 ・ICTを利用して、発表に工夫をさせ、生徒にそれぞれの発表に対する評価をできるように授業の工夫をしていく。 ・3年間の総復習問題に取り組みながら、読解力の向上を目指す。